

わくわく・すいすい『水辺探検』 ～小学生とその保護者による水辺探検と作品制作～



水滴対策にビニール袋を被る参加者(扇橋閘門)

当技士会では、昨年度に引き続き、「まちふねみらい塾」わくわく・すいすい『水辺探検』実行委員会(阿部彰委員長)が主催する水辺探検隊の活動を後援しました。この活動は、都心で育った子供たちに、江戸時代から受け継がれる豊かな東京の水辺に親しんでもらい、ふるさとも感じてもらうことで、未来のまちづくりに参画してほしい、との願いを託して行われたものです。

昨年度は中央区2校、港区1校の計3校の小学校から参加者を求めましたが、今年度は都心の小学校7校に呼びかけるとともに、インターネット上から公募し、広く働きかけが行われ、小学生とその保護者合計56名が参加しました。

8月2日、9日の2回に分けて開催。2日は晴天に恵まれ、9日は台風の接近により開催が危ぶまれましたが、無事実施することが出来ました。実行委員会のボランティアのほか、日本大学「土木女子の会」や千葉大学工学部の学生がサポーターとして参画。午前中は日本橋から乗船し、日本橋川、隅田川など都心の川をクルーズ。江戸城の石垣には、それをつくった大名の刻印があるという説明を聞いて印を探したり、橋の裏側には、水道管、下水道、電線、電話線など様々な重要な施設があると説明を受け観察したり、扇橋閘門の2mもの水位差に驚いたり、様々なことを経験し

ました。午後はクルーズで見聞きして印象に残った橋や建物、風景などを思い思いにTシャツに絵を描く作品づくりを子どもたちと保護者それぞれに行いました。Tシャツづくりが終わると発表会を開催し、一人ひとりが自分の作品の作成意図などを発表しました。

当会からは昨年度に引き続き「情報・広報グループ」大島正康グループ長(清水建設株)の協力を得て、若手土木職員がワークショップの専門アドバイザーとして参加、作品づくりに助言などを行いました。活動を通して、参加した子供たちや保護者に建設業への理解を楽しみながら深めてもらいました。



Tシャツに絵を描く子どもたち